

気象コラム(6)

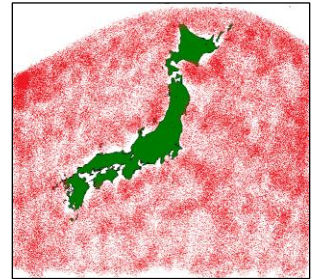
みなさん、夏山は十分に楽しめましたか？

ガスでなんにも見えなかった、雨にやられた、という人がけっこういるのではないかと思います。「今年の夏はなんか変やなあ」という声もちらほらと耳にしました。そこで、今年の夏の天候を振り返って、その特徴について少し考えてみたいと思います。

夏の天気傾向は、日本が「太平洋高気圧にどう覆われるか」によって変わってきます。代表的には、以下の3つの型があると言われています。

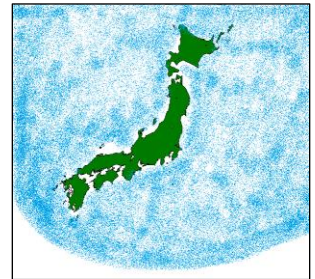
①太平洋高気圧に覆われる「盛夏型」

梅雨前線が北上して梅雨明けすると、この型になります。本州各地で 35℃以上の猛暑日を記録します。背の高い太平洋高気圧に覆われるため、大気が比較的安定します。



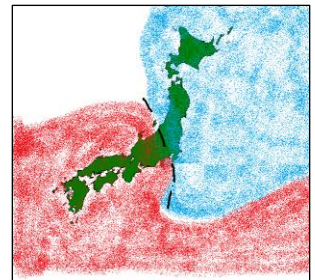
②オホーツク海高気圧に覆われる「冷夏型」

梅雨前線が南下して消滅すると、この型になります。オホーツク海高気圧は湿った冷たい空気を東から送り込んでくるので、特に東北や関東では曇りや雨になります。



③西日本が太平洋高気圧、東日本がオホーツク海高気圧に覆われる「北冷西暑型」

九州・四国付近が太平洋高気圧の勢力圏内、北海道・東北がオホーツク海高気圧の勢力圏内になる型です。西日本では猛暑、東日本では冷夏になります。本州の真ん中あたりが太平洋高気圧とオホーツク海高気圧の境目になるので、そこに潜在的な前線があります。



今年の夏は③の型だったのではないかと考えています。本州付近は二つの気団の境目であるため、中日本ではいつまでも梅雨末期のような天候でした。太平洋高気圧の勢力が強くないため、8月最後の週末(26日・27日)には早くも大陸からやってきた移動性高気圧に秋雨前線が南に押し下げられて、秋のような爽やかな気候になりました。

さて、来年はどんな夏になるでしょうか・・・

(高田和孝/H.C.teruru)